

関数検定から見たテモ文の日中対照研究

張 北林 趙 海城

要旨：

中国語は類型論からすると孤立語であるため、“意合”を主要機能とし、補助的機能として“形合”を用いる(“意合为主,形合为补”)言語である。そのため中国語では関連詞を用いず、語順や文脈によって、前後の論理関係を表すのが普通である。従って、中国語の複文は通常その7割以上が無標形式である。しかし、今回の調査では逆接条件テモの対訳例の無標形式は26.11%にすぎなかった。逆接条件は順接条件とは違って、人間の通常の論理的思考に反する結果を表すため、有標形式(形合法)で表すしかないと思われる。テモの中国語への対訳傾向は主に次の三つが挙げられる。第一に、[I仮定的譲歩文]はその殆どの場合[①～p, 也q]に訳されるが、[①～p, 也q]は仮定的・事實的・反事實的の意味のどちらも表せる。第二に、[II事實的譲歩文]との関連度が最も強いのは[⑩～p, 仍/还q]と[②～p, 都/总q]である。第三に、[IV順接条件に近い用法]は假定表現[⑬如果p, ~q]との関連度が最も強い。

キーワード：テモ文、対訳例、中国語形式、関数検定、関連度

1. はじめに

逆接条件を表すテモについての分析は従来、「条件の否定説」と「条件のとりたて説」¹⁾に分かれているが、実際の用例を見ると、(01～04)のように、接続助詞テモから派生してきた「どうしても」、「それにしても」、「と(は)言っても」、「いずれにしても」などの用法や(05、06)のような単文におけるテモの用法もある。

(01) ひどく疲れていて眠くて仕方がないのに、どうしても眠ることができないのだ。

村上春樹『ノルウェイの森』

(02) 晴美は、エレベーターの階数表示を見上げた。それにしても遅い。

赤川次郎『三毛猫ホームズの駆落ち』

(03) 三人——といっても、森崎の肩のホームズを含めてであるが、——は、校門への並木道を辿って行った。

赤川次郎『三毛猫ホームズの推理』

- (04) それがどんなものであるかは本人にしかわからないが、いずれにしてもあまり気持ちの良いものではなかったことはたしかなようだな。 村上春樹『羊をめぐる冒険』
- (05) とくに二番目の佐々木和美などは、グループに入ってもいなかったという。 赤川次郎『三毛猫ホームズの推理』
- (06) まさか、それで八重子さんがあの人を殺してしまうとは、思ってもいませんでしたけど…… 赤川次郎『三毛猫ホームズのクリスマス』

このようなテモの用法は、今のところ日中対照研究の立場からは十分な議論がなされていないと考え、本稿ではまず日本語のテモ文の全体像を探りつつ、それに対応する中国語形式を対訳例から実証的に考察することを目指す。

2. 従来の研究

2.1. 日本語の先行研究

南 (1974, 1993) では、日本語の文の階層構造について、A 段階、B 段階、C 段階、D 段階に分けている。現代のモダリティ論に言い換えるとそれぞれ、命題の核 (A)、命題 (B)、認識モダリティ (C)、伝達モダリティ (D) 領域に当たると思われるが、南氏は接続助詞テモを B 段階に属するとしている²⁾。

坂原 (1985) は、条件文と仮定的譲歩文、理由文と事実的譲歩文、反事実的条件文と反事実的譲歩文がそれぞれ対応しているとしている (図 1)。有田 (2007) は、前件の既定性と話し手の知識という立場から、条件文を 3 分類した。前件の命題が非既定的である文を予測的条件文に、前件の命題が既定的かつ話し手がその真偽を知らない文を認識的条件文にし、更に前件の命題が既定的かつ話し手がその偽を知っているような文を反事実的条件文と定義している (表 1)。

| | | |
|--------------|---|---------------|
| E=1 (暗黙前提成立) | | E=0 (暗黙前提不成立) |
| 条件文 | → | 仮定的譲歩文 |
| 原因理由文 | → | 事実的譲歩文 |
| 反事実的条件文 | → | 反事実的譲歩文 |

< 図 1 > 条件文と譲歩文の関係

< 表 1 > 条件節命題既定性と条件文の種類

| | 命題に対する話者の認識 | 条件文の種類 |
|-----|--------------|---------|
| -既定 | | 予測的条件文 |
| +既定 | 無知 | 認識的条件文 |
| | 偽であることを知っている | 反事実的条件文 |

前田 (2009) は、テモ文の用法をテ形の並列・とりたて、並列条件、逆条件、並列・逆条件の 4 種に分類している。テモ文は仮定的事態と事実的事態のどちらの事態も取り結ぶことができ、また、反事実を表すこともできるとされている。

2.2. 中国語の先行研究

逆接条件文は、中国語では“転折複句”と呼ばれているが、“転折複句”については以下のいくつかの代表的な分類がある。

黎 (1924) は、“転折複句”を“重転” (逆接の意味が強い)、“軽転” (逆接の意味が薄い)、“意外” (意外な逆接) の 3 種類に分けている。強い逆接を表す関連詞³⁾には、“然而、但 (是)、可是、却是” などがあり、弱い逆接を表す関連詞には、“只是、不过、其实、事实上” などがある。また、意外な逆接を表す関連詞には、“不料、反而、偏巧” などがある

としている。

邢 (2001) は、中国語の“転折複句”を“譲歩句 (譲転句)、転折句 (純転句)、仮転句 (否則句)”の3種に分けている。そのうち、“譲歩句 (譲転句)”を更に、“容認性譲歩句、虚擬性譲歩句、無条件譲歩句、忍讓性譲歩句”の4種に分類している。“容認性譲歩句”は事実文で、日本語の事実的譲歩文にはほぼ相当し、“虚擬性譲歩句”は仮定文で、日本語の仮定的譲歩文にはほぼ相当すると考えられる。

郭 (1999) は、複文の前件と後件の間に“転折関係 (逆接関係)”が成立するか否かは、あくまで話者の心的態度によるものであり、前後が意味的に対立する場合のみならず、結果が話者の予想・期待に外れる時にも、“転折関係”が成立するとしている。複文の前後の意味関係から“転折複句”を“譲歩類転折複句、因果関係類転折複句、時空関係類転折複句”などに分けている。そのうちの“時空関係類転折複句”の下位タイプとして、“解証転折複句、総分転折複句”などがある⁴⁾。

以上のような研究は、日本語のテモ文と中国語の“譲歩文”をあくまでそれぞれ各自言語体系内部のものとして捉えたものである。言語類型論的な相違からも、両言語の「譲歩文」における意味的、構文的な不一致性が多く存在すると思われるが、本稿では小説の対訳例を基に、日本語のテモ文とその中国語訳との関連度を統計学的に考察してみることにする。次節からは、テモの意味分類 (3節) とそれに対応する中国語“譲歩句” (4節) について考察していくことにする。

3. テモ文の意味と分類

本節では、従来のテモ文の意味分類および対訳例のパターンを基に、テモ文を次のような六分類とする。

3.1. 仮定的譲歩文

テモは仮定的なリアリティーを持つ事態を取り上げて、仮定条件を表すことができる。これは、テモ文の基本的な用法であると考えられる。このような用法は有田 (2007) が述べている予測的条件文に当たる。このようなテモは普通「たとえ、いくら、もし、仮に」などの副詞と共に起す場合が多いが、一般的に後件 (主節) がル形 (基本形) である。

(07) a. たとえ片山さんがどうなっても、僕は晴美さんの味方です。

赤川次郎『三毛猫ホームズのクリスマス』

b. 不管片山兄遭遇什么, 我一直站在你这边。 叶惠译《三毛猫的圣诞节》

(08) a. いくら、世間にはよく似た人がいるといっても、背広まで同じなんてことは考えられない。

赤川次郎『三毛猫ホームズの駆落ち』

b. 这世間即使有相似的人, 也不可能连西装都一样吧! 叶惠译《三毛猫的私奔》

仮定的譲歩を表すテモ文は、実現可能な「仮定」と実現不可の「仮定」の2種に分けられる。実現可能な「仮定」とは、普通なら有り得るような条件・帰結の関係を持っている場

合を指す(07、08)。実現不可の「仮定」とは、普通なら有り得ないような条件・帰結の關係を持っている場合を指し、比喩的な条件を設定する場合が多い(09、10)が、このような条件を「究極な逆条件」(条件の特殊化)ともいう(前田2009:198)。仮定的讓歩を表すテモ文を中国語では普通“即使 p, 也 q”、“不论 p, 都 q”などで表す。

(09) a. 会社勤めなんかしてたら、百年たってもこうまくはいかない。

村上春樹『国境の南、太陽の西』

b. 若是当什么公司职员，一百年也别想这么顺当。

林少华 译《国境以南，太阳以西》

(10) a. あれじゃ下の連中は命がいくつあっても足りません。

赤川次郎『三毛猫ホームズの恐怖館』

b. 下面的人才可伶呢，有十条命也不够呀。

叶惠 译《三毛猫恐怖馆》

3.2. 事実的讓歩文

テモ文は仮定的な出来事の逆接的關係を表す以外に、事実的なりアリティーの逆接を表す事実的讓歩文を表せる。後件(主節)がタ形の時には、前件(従属節)が過去の時間(11、12)や場所(13、14)を指し示す言葉がよく用いられる。

(11) a. 細かい雨は翌日の五時になってもまだ降りつづいていた。村上春樹『羊をめぐる冒険』

b. 毛毛细雨到翌日5时仍下个不停。

林少华 译《寻羊历险记》

(12) a. 九月的第二週になっても突襲隊は戻ってこなかった。村上春樹『ノルウェイの森』

b. 9月进入第二周后，敢死队仍未回来。

林少华 译《挪威的森林》

(13) a. 東京に戻っても、一人で部屋の中に閉じこもって何日かを過した。

村上春樹『ノルウェイの森』

b. 返京以后，我仍然一个人在房间里闷了好几天。

林少华 译《挪威的森林》

(14) a. じっさい、喜助は仕事場に坐っていても、子供のようにであった。

水上勉『越前竹人形』

b. 的确，喜助坐在作业场上就像个小孩。

何平 译《越前竹人形》

このようなテモ文は、事態や動作の継起を表し、いわゆる逆接確定条件である(有田2007で言う認識的条件文に当たる)。後件(主節)がル形の時には、反復・習慣的に起きている逆接恒常条件を表す場合が多い(15、16)。

(15) 海底では水は100度になっても沸騰しない。(日本語記述文法研究会 2008:148)

(16) 父は天氣が悪くても毎日ジョギングを欠かさない。(日本語記述文法研究会 2008:148)

このような事実的讓歩を表すテモ文は、中国語では普通“虽然 p, 但 q”、“~ p, 仍 / 还 q”などで表す。

3.3. 反事実的譲歩文

テモは反事実条件文に対応する反事実的譲歩文の用法もある。この場合は後件（主節）にダロウなどのモダリティ形式が現れる場合が多い。

- (17) a. でももしたとえ今日叔母が来なかったとしても、きっとそれに似た何かはいつか起こったことだろう。
村上春樹『国境の南、太陽の西』
b. 即使姨母今天不来，恐怕早晚也还是要发生什么。
林少华 译《国境以南，太阳以西》
- (18) a. もし彼女が四十二歳で、子供が三人いて、お尻に二股の尻尾がはえていたとしても、気にもとめなかっただろうと思う。
村上春樹『国境の南、太陽の西』
b. 即使她四十二岁有三个小孩且屁股生两条尾巴，我想我也不至于介意。
林少华 译《国境以南，太阳以西》

事実的譲歩を表すテモ文は、中国語では普通“即使 / 即便 / 假如 p, 也 q”、“p, 就好了 q”などで表す。

3.4. 「順接条件」に近いテモ文

テモを用いても逆接条件ではなく、むしろ順接条件に近い意味を表す場合もある。例えば次(19a、20a)の中のテモをタラに置き換えても、文の大意はほぼ変わらない(19c、20c)。前田(2009:188)では「順接条件にかなり近い意味を表す」とされながらも、ただふれるだけにとどまり、テモの分類の中に入れていない。本稿では、このようなテモの意味も視野に入れて、テモの意味・用法の全体図を探ることを目指す。

- (19) a. どうしてそんなうさん臭いところに二年もいたのだと訊かれても答えようがない。
村上春樹『ノルウェイの森』
b. 如果有人问起何以在如此莫名其妙的地方竟然呆两年之久，我也无法回答。
林少华 译《挪威的森林》
c. どうしてそんなうさん臭いところに二年もいたのだと訊かれたら答えようがない。
- (20) a. 今思いたしてもゾツとするわよ。
村上春樹『ノルウェイの森』
b. 现在想起来都直起鸡皮疙瘩。
林少华 译《挪威的森林》
c. 今思いたしたらゾツとするわよ。

3.5. テモの拡張的用法

日本語の接続助詞テモは B 段階に属していて、テンスやモダリティの挿入ができないため、用法がかなり限られている⁵⁾。したがって、B 段階のテモから「それにしても、いずれにしても、と(は)言っても、どうしても」などといった形式が派生⁶⁾してきたと考えられる。つまり、テモの意味拡張の形式だといえるだろう。

- (21) a. もっとも、好きだから憶えられるのかもしれないが、それにしても大したものだ。

赤川次郎『三毛猫ホームズの恐怖館』

b. 也许她因着喜欢才记住, 不过那已是很了不起了。 叶惠译《三毛猫恐怖馆》

(22) a. 由紀子が、心もちやつれたように思えた。——といっても、いつも妻の顔色を、よく見ているわけではないのだが。 赤川次郎『三毛猫ホームズのクリスマス』

b. 由紀子心里一定很失望吧可是这时她的神情, 又不像平时所看到的她……

叶惠译《三毛猫的圣诞节》

(23) a. 昔々、といってもせいぜい二十年ぐらい前のことなのだけれど、僕はある学生寮に住んでいた。 村上春樹『ノルウェイの森』

b. 很久很久以前——其实也不过大约20年前, 我住在一座学生寄宿院里。

林少华译《挪威的森林》

このようなテモの用法は、中国語の“讓歩文”とどのような対応関係を持つか、第5節で、関数検定を通して詳しく分析していくことにする。

3.6. 「強調」と「意外」を表すテモ

テモは以上のような複文における用法以外に、単文における用法もある。その一つは「強調」を表す用法であり(05、24)、とりたて助詞モの用法⁷⁾によるものだと考えられる。もう一つは「意外」を表す用法であり(06、25)、沼田(2009)によれば、このようなモにはモ₁(累加)とモ₂(意外)の2種の用法があるとされている。また、テモの逆接条件の用法はモ₂(意外)によるものだとされている(沼田2009:157)。つまり、ここでいう「意外」の(テ)モは逆接条件を表すテモのモと本質的に同じであることになる。

(24) a. どうして俺が犯人なんだ、考えてもみる。 赤川次郎『三毛猫ホームズの駆落ち』

b. 试想一想, 我会是凶手吗? 叶惠译《三毛猫的私奔》

(25) a. それが女と会うためだったなどは、思ってもみないのです。

赤川次郎『三毛猫ホームズの駆落ち』

b. 她都不会怀疑我在外面有女人。

叶惠译《三毛猫的私奔》

4. 中国語の“讓歩文”

4.1. 中国語“讓歩文”の表現形式

中国語の“讓歩文”は前件と後件の間に関連詞を用いてつなぎ、前後の論理関係を表す。関連詞を用いる場合もあれば(有標形式)、用いない場合もある(無標形式)。関連詞を用いるか否かによって、次の<表2>のような四つの形式に分けられる。

<表2> 中国語“複文”の表現形式*

| 中国語複文の分類 | パターン | 表現形式 | 例 |
|----------|-----------|---------------|----------------|
| ① | “~ p, ~q” | “関連詞 p, 関連詞q” | 即使贵, 也买。 |
| ② | “φ p, ~q” | “(省略)p, 関連詞q” | φ多贵, 也买了。 |
| ③ | “~ p, φq” | “関連詞 p,(省略)q” | 不论多贵, 对她来说一样。 |
| ④ | “φ p, φq” | “(省略)p,(省略)q” | φ你们这贵, φ人家那便宜。 |

※本稿での「～」はいずれかの不特定の関連詞が現れることを表すものであり、「φ」は関連詞が現れない無標形式を表すものである。例えば“～ p, φ q”は前件p節にはある関連詞が現れたが、後件q節には関連詞がないことを表す。

姚 (2008) の人民日報コーパスに基づく調査によると、中国語の複文の71.1% が“無標形式 (意合法)”であることが明らかになったが、それは孤立語である中国語では関連詞を用いず、語順や文脈によって、前後の論理関係を表すのが普通であるからだと考えられる。しかし、張・李 (2012) の対訳例調査によれば、テモの中国語訳のうち“無標形式”が27.07%でしかないことが分った。逆接条件は順接条件と違って、人間の通常の論理的思考に反する結果を表すため、“有標形式 (形合法)”で表すしかないと考えられる (詳しい分析は張・李 (2012) を参照⁸⁾)。

2.2節でも述べたように、邢 (2001) では中国語の「讓歩文」を“容認性讓歩句、虚擬性讓歩句、無条件讓歩句、忍讓性讓歩句”の4種に分けているが、基本的に“容認性讓歩句”は日本語の事實的讓歩文に、“虚擬性讓歩句”は日本語の仮定的讓歩文にそれぞれ対応している。“無条件讓歩句”と“忍讓性讓歩句”は事實的・仮定的讓歩文のどちらも表すことが可能である⁹⁾。各下位タイプの代表的な表現形式と対応する日本語条件文分類は次の<表3>のようになる。

<表3>「讓歩文」の下位タイプの表現形式と対応する日本語

| 「讓歩文」の分類 | 意味的役割 | 代表的な表現形式 | 対応する日本語 |
|----------|-------|-----------|-----------------|
| ① 容認性讓歩句 | 実讓 | 虽然 p, 但 q | 事實的讓歩文 |
| ② 虚擬性讓歩句 | 虚讓 | 即使 p, 也 q | 仮定的讓歩文 |
| ③ 無条件讓歩句 | 総讓 | 无论 p, 都 q | 事實的讓歩文 / 仮定的讓歩文 |
| ④ 忍讓性讓歩句 | 忍讓 | 宁可 p, 也 q | 事實的讓歩文 / 仮定的讓歩文 |

4.2. “讓歩文”を表す中国語の関連詞

中国語“讓歩文”の後件 (主節) に用いられる関連詞には副詞、接続詞の2種類がある。

副詞: 最もよく使われる副詞は“也”であり、そのほかに、“都、还、仍、却、反而、倒”などがある。“还”は“仍”と意味的に似ていて、既然の事態を表す。また、“却”は「意味的な逆接」を表す有標形式であり、“倒₁”は少なからず話者の予期に反する意味を表す。逆接の意味の強弱順にこれらの副詞を並べると、“倒₂/倒反/反倒/反/反而”→“却”→“倒₁”になる (郭 1999:314)¹⁰⁾。

接続詞: “但是”は逆接を表す代表的な接続詞であり、“可 (是)”、“(然) 而”、“不过”、“只是”なども意味的にそれに近い接続詞である。これらの接続詞“但是”類は副詞“却”類と置き換え可能な場合もあれば、できない場合もある。中国語における“但是”類は構造的に逆接を表す標識 (形式) であるのに対して、“却”類は意味的関連性から逆接を表すものである (邢 2001:293-295)。

郭 (1999) によれば、“転折複句”のすべての意味用法を“却”で表すことが可能だが、“但是”はその使用範囲が限られていて、“(然) 而”はやや古典的な言い方で強い逆接を表す一方、“不过、只是”は弱い逆接を表す。逆接を表すこれらの形式を意味の強弱順に並べると、“然而→但→但是→而→可→可是→不过→只是”になる (郭 1999:308)。

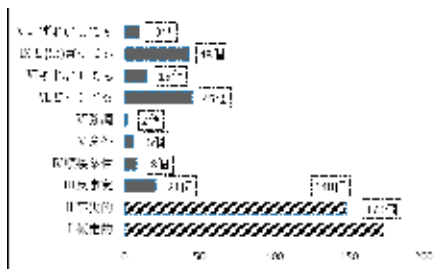
以上のように、日本語のテモ文と中国語の“讓歩文”の対応関係を文法理論の立場から整理してみたが、自然言語で実際どういうふうに対応しているかという点については、今のところ研究が乏しいといえるだろう。そのため本稿では理論研究だけでなく、対訳例に基づいて両者の対応関係を実証的に考察することを目指す。

5. テモ文対訳例の関数検定

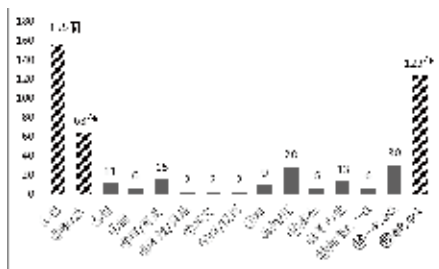
今回は4篇の日本語の作品¹¹⁾を対象に、テモ文が中国語でどのように訳されているかを調査した。その結果、471個のテモ例(動詞撥音便につくデモも含む)が検出された。従来のテモ文の意味分類および対訳例のパターンを基に、テモ文を次の10種類に分類し、そこから中国語訳を次の15パターンに分類した。

意味分類：[I仮定的讓歩文]、[II事實的讓歩文]、[III反事實的讓歩文]、[IV順接条件に近い用法]、[V意外]、[VI強調]、[VIIどうしても]、[VIIIそれにしても]、[IXと(は)言っても]、[Xいずれにしても]¹²⁾。

中訳パターン：[①～p, 也 q]、[②～p, 都 / 总 q]、[③～p, 但 q]、[④～p, 而 q]、[⑤～p, 可 / 可是 q]、[⑥～p, 不过 / 只是 q]、[⑦～p, 其实 q]、[⑧～p, 倒 / 反而 q]、[⑨～p, 却 q]、[⑩～p, 仍(然) / 还(是) / 并 q]、[⑪～p, 实在 q]、[⑫その他]、[⑬如果 p, ～ q]、[⑭～p, φ q]、[⑮φ p, φ q]。



< 図 2 > 10 種意味分類の出現数



< 図 3 > 中訳 15 パターンの出現数

本論ではテモの意味分類(10種)と中国語訳パターン(15種)の関連度を調べるため、上記のテモ文471個とそれに対応する中国語訳例471個で「テモ専用の対訳コーパス」を作成した。「テモ専用コーパスの総語数」は471個のテモ例とその中国語訳例471個の合計数942個である。意味分類10種と中訳15パターンの関連度の組み合わせは合計10×15=150組になるが、その関連度をMI、T、G検定した後、Gスコア(最尤度比)のランキング上位15位を示すと次の<表4>¹³⁾のようになる。

< 表 4 > テモ文の意味分類と中国語訳関連度関数

| テモ文と中訳の関連度 | | 最尤度比 G | MI スコア | T スコア |
|------------|--------------------------|-------------|------------|------------|
| [1] | [I仮定的] + [①也] | No.01 103.2 | No.34 1.45 | No.01 5.59 |
| [2] | [II事實的] + [⑩仍 / 还] | No.02 39.90 | No.23 2.10 | No.04 3.35 |
| [3] | [II事實的] + [②都 / 总] | No.03 38.54 | No.31 1.59 | No.02 3.66 |
| [4] | [VIIIそれにしても] + [⑤可 / 可是] | No.04 32.38 | No.02 4.64 | No.07 2.35 |
| [5] | [I仮定的] + [⑮φ p, φ q] | No.05 31.32 | No.42 1.05 | No.03 3.55 |
| [6] | [IV順接条件] + [⑬如果 p, ～ q] | No.06 21.59 | No.01 5.87 | No.17 1.70 |

| | | | | | | | |
|------|-------------------------|-------|-------|-------|------|-------|------|
| [7] | [Ⅱ事実的]+[①也] | No.07 | 17.66 | No.44 | 0.81 | No.05 | 2.83 |
| [8] | [Xいずれにしても]+[⑭~p, φ q] | No.08 | 17.22 | No.05 | 3.97 | No.12 | 1.87 |
| [9] | [Ⅲ反事実]+[①也] | No.09 | 14.61 | No.30 | 1.66 | No.08 | 2.27 |
| [10] | [Ⅸと(は)言っても]+[⑮φ p, φ q] | No.10 | 14.08 | No.35 | 1.41 | No.06 | 2.42 |
| [11] | [Ⅰ仮定的]+[⑭~p, φ q] | No.11 | 12.93 | No.39 | 1.34 | No.09 | 2.26 |
| [12] | [Ⅱ事実的]+[⑨却] | No.12 | 11.90 | No.24 | 2.08 | No.13 | 1.87 |
| [13] | [Ⅶどうしても]+[⑫その他] | No.13 | 10.86 | No.12 | 2.92 | No.16 | 1.74 |
| [14] | [Ⅶどうしても]+[①也] | No.14 | 10.12 | No.40 | 1.11 | No.10 | 2.14 |
| [15] | [Ⅴ意外]+[⑮φ P, φ Q] | No.15 | 9.27 | No.19 | 2.35 | No.19 | 1.61 |

今までの理論研究と今回の関数検定から新たに分ったことは次の五点にまとめることができる。

第一に、[Ⅰ仮定的譲歩文]はその殆どの場合 [①~p, 也 q] に訳されるが、[①~p, 也 q] がいつも [Ⅰ仮定的譲歩文] に訳されているとは限らない。

[Ⅰ仮定的譲歩文] は [①~p, 也 q] との関連度が最も強く、Gスコア(最尤度比)は No.01(103.2)である。但し、MIスコア(相互情報量)が No.34であるということは [Ⅰ仮定的譲歩文] が [①~p, 也 q] に訳されている傾向が最も強いといっても、[①~p, 也 q] が必ず一対一に [Ⅰ仮定的譲歩文] と対応するとは限らない。<表4>の中のランキング [7] と [9] を見て分かるように、[①~p, 也 q] は [Ⅰ仮定的譲歩文] 以外に、[Ⅱ事実的譲歩文] や [Ⅲ反事実的譲歩文] などを表す場合もある。つまり [①~p, 也 q] は仮定的・事実的・反事実的のいずれも表せる。

第二に、[Ⅱ事実的譲歩文] との関連度が最も強いのは [⑩~p, 仍/还 q] と [②~p, 都/总 q] であるが、[①~p, 也 q]、[⑨~p, 却 q] などに訳される場合もある。

[Ⅱ事実的譲歩文] は [⑩~p, 仍/还 q] (G:No.02, MI:No.23, T:No.04) と [②~p, 都/总 q] (G:No.03, MI:No.31, T:No.02) に訳される傾向が最も強い。第4節でも触れたように、“仍/还”はすでに発生していること、即ち条件文の後件(主節)が既然の事態を表すため事実的譲歩文を表す専用形式であると言えるだろう。[Ⅱ事実的譲歩文] はそのほかに [①~p, 也 q]、[⑨~p, 却 q] などに訳される場合もある。テモのほかに、「ガ」や「ケレドモ」も事実的譲歩文を表すことができる(日本語記述文法研究会2008:260)。邢(2001)で指摘している中国語の“容認性譲歩句”の代表形式“p, 但 q”(表3)は、「ガ」や「ケレドモ」譲歩文に対応していると考えられる。

第三に、[Ⅲ反事実的譲歩文] は [①~p, 也 q] に訳される傾向が最も強い。

[Ⅲ反事実的譲歩文] も [Ⅰ仮定的譲歩文] と同じく [①~p, 也 q] に訳される傾向が最も強く(G:No.9, MI:No.30, T:No.8)。[①~p, 也 q] のほかに、[Ⅲ反事実的譲歩文] を表す形式には“p, 就好了 q”、“p, 何尝不好 q”などがある。

第四に、[Ⅳ順接条件に近い用法] は [⑬如果 p, ~ q] との関連度が最も強い。

[Ⅳ順接条件に近い用法] の殆どは“如果/假如/若 p, ~ q”などに訳されている。中国語訳(19b, 20b)から見ても、関数検定から見ても、このようなテモの用法が日本語の順接条件(トヤタラ)の意味に非常に近いことが一目瞭然である。[Ⅴ意外] は [⑮φ p, φ q] に訳される傾向が最も強く(G:No.15, MI:No.19, T:No.19)。[Ⅵ強調] も同じような傾向が見られる(G:No.62, MI:No.11, T:No.30)。

第五に、[Ⅶそれぞれにしても]、[Ⅸと(は)言っても]と[Xいずれにしても]について見る。[Ⅶ

それにしても]は[⑤可/可是]との関連度が最も高い。[IXと(は)言っても]は中国語の“解証”と“輕転”の意味を表せる。[Xいずれにしても]は中国語の“無条件讓歩句”の意味に近い。

[Ⅷそれにしても]は[⑤可/可是q]との関連度が最も強く、[⑤可/可是q]も意味的に[Ⅷそれにしても]に最も近いと言える(G:No.04、MI:No.02、T:No.07)。この点、両者の相互関連度を表すMIスコアが4.64(No.02)であることから裏付けられる。また、“可/可是”は弱い逆接を表す副詞であるため、[Ⅷそれにしても]は中国語の“輕転”(弱い逆接)と意味的に最も近いと考えられる(詳しくは2.2節を参照のこと)。

[IXと(は)言っても]の中訳パターンは多種多様ではあるが、その中で、[⑥不过/只是]のMIスコアはNo.03であり、[⑦其实]のMIスコアはNo.04である。“不过/只是”は典型的な弱い逆接を表す副詞であり、“其实”は“解証”関係を表す意味合いがとて強いのである(22b、23b)。このことから、[IXと(は)言っても]は本義である「讓歩文」の意味以外に、中国語の“輕転”と“解証”の意味をも表すことができると言えよう。

10個の[Xいずれにしても]の例のうち、8個が“不管p, ~q”に訳されている、このことから、[Xいずれにしても]は中国語の“無条件讓歩句”(総讓)の意味に近いと考えられる。

6. 問題点と今後の課題

本稿では、従来の日本語のテモ文と中国語の“讓歩文”の先行研究を概観しつつ、対訳例を用いた関数検定によって、日中両言語の讓歩文の対応関係を考察した。その結果を以下の3点にまとめることができる。

まず、今回調査した471個のテモ文の例のうち、“無標形式”は123個であり、全体の26.11%を占めている。これは、張・李(2012)が行った調査の結果(27.07%)とはほぼ一致していることが分かった。中国語は類型論からすると孤立語であるため、“意合”を主要機能とし、補助的機能として“形合”を用いる(“意合为主、形合为补”)言語である(黎1924)。そのため中国語では関連詞を用いず、語順や文脈によって、前後の論理関係を表すのが普通である。従って中国語の複文は通常その7割以上が無標形式である(姚2008)。しかし、今回の調査ではテモの対訳例の26.11%が無標形式であった。その点、逆接条件は順接条件とは違って、人間の通常の論理的思考に反する結果を表すため、有標形式(形合法)で表すしかないと思われる。

次に、従来の理論研究とはほぼ一致する点は二つ挙げられる。一つ目は、“p, 也 q”は仮定的・事實的・反事實的のどちらも表せる。二つ目は、[IV順接条件に近い用法]の訳は順接条件文(中国語では“条件複句”と呼ばれる)に非常に近いことが分かった。

最後に、理論研究と異なる点や新たに分かったことは次の二つ挙げられる。一つ目は、日本語の事實的讓歩文は「テモ」、「ガ」や「ケレドモ」で表される。「ガ」や「ケレドモ」讓歩文は中国語訳される時、ふつうは接続詞“但”に訳される。「テモ」讓歩文は副詞“仍/还”、“都/总”、“也”などに訳される。二つ目は、孤立語である中国語では、讓歩を表す関連詞は数多く存在しており、それぞれ異なる役割をしている、その反面、膠着語である日本語の(従属節における)テモの用法は限られている。そのため、接続助詞テモから、「それにしても」、「いずれにしても」などのような接続詞的用法や、「どうしても」のような副詞的用法が派生し

てきたと考えられる。これによりテモ形式の意味及び使用範囲が広がることになったと言えよう。

日本語のテモ文と中国語の“讓歩”を表す形式の対照をまとめてみると次の<表5>になる。

<表5> 日本語のテモ文と中国語の“讓歩文”の対照

| | | 日本語（膠着語） | 中国語（孤立語） |
|------------------|-----------|---------------------------------|----------------|
| 表現形式 | | 助詞の組み合わせ (接続助詞「テ」+とりたて助詞「モ」) | 関連詞 p, 関連詞 q |
| 出現位置 | | 従属節の述語末 | 従属節の文中、主節の文中 |
| 省略可／不可 | | × | ○ |
| 下 位 分 類 | 従属節における用法 | I仮定の讓歩文 | “虚讓” |
| | | II事実的讓歩文 | “実讓” |
| | | III反事実的讓歩文 | “違実条件” |
| | | IV「順接条件」に近い用法 | “条件複句” |
| | 派生的用法 | Vどうしても | “総讓” |
| | | IXと(は)言っても | “讓歩”、“輕転”、“解証” |
| | | Xいずれにしても | “総讓” |
| | | VIIIそれにしても | “輕転” |

本稿では重複型テモ形式（「～テモ、～テモ」）について触れなかったが、この形式の研究は今後の課題としたい。

注

- 「条件の否定説」としているものには坂原茂（1985）など、「条件のとりたて説」としているものには前田直子（2009）などがある。
- 南（1974:122-124）では B 段階で現れる助詞を B 類助詞（ので・たら・ても・と・なら・のに・ば）、C 段階で現れる助詞を C 類助詞（が・から・けれど・し）としている。
- 中国語の関連詞は接続詞・副詞などさまざまな品詞に分かれている（邢 2001:28-29）。
- “解証転折複句”は後件が前件に対する解釈や説明を表す複文のことを指す。“総分転折複句”には 2 種類のパターンがあり、一つは前件が事態の全体、後件が事態の一部を表すものと、もう一つは逆に前件が事態の一部、後件が事態の全体を表すものである（郭 1999:107、153）。
- 有田（2007:37）では、日本語における時制形式を「ル/タ形」とすると、「たら」節には「タ形」しか含まれず、「ば」節、「ても」節にはどちらも含まれないと述べている。この点においては、B 類よりもむしろ A 類の副詞節に近いと言える。
- 本稿では、「それにしてもいずれにしても」を「ても」の接続詞的用法と呼ぶことにし、「どうしても」を「ても」の副詞的用法と呼ぶことにする。
- 永野賢（1951）では、モは強調・極端意外を表す意味・用法があると指摘する。例：細かい雨がすきまなしに降りこめていました。（強調）
- 張・李（2012）の調査対象は『あした来る人』、『坊ちゃん』、『越前竹人形』、『布団』、『雁のてら』の 5 篇の作品とその対訳例である。
- 邢（2001:472）では、「在虚指实指问题上,忍让和总让相同。p 所说的可以是假设,也可以是事实」と述べている。
- 郭（1999:60）では“‘倒也整齐’意思接近于‘却比较整齐’,这种用法的‘倒’记为‘倒₁’。“‘倒反/反倒’的‘倒’记为‘倒₂’”と述べている（“倒也整齐”は“却比较整齐”に意味的に近く、このような“倒”の用法を“倒₁”と呼ぶ。“倒反/反倒”の“倒”の用法を“倒₂”と呼ぶ）。
- 『三毛猫ホームズの恐怖館』、『三毛猫ホームズの推理』、『羊をめぐる冒険』、『ノルウェイの森』の 4 作品である。
- 図 2、表 4 の中では、[I 仮定の讓歩文]、[II 事実的讓歩文]、[III 反事実的讓歩文]、[IV 順接条件に近い用法]をそれぞれ [I 仮定的]、[II 事実的]、[III 反事実]、[IV 順接条件]と略記する。
- 本稿における MI スコア、T スコア、最尤度比などのコロケーション測定方法は中條・内山・長谷川

(2005) の測定方法に準じたものである。MI スコアは相互情報量とも呼ばれていて、ある語が共起相手の語の情報をどの程度持っているかを示す指標であり、MI スコアが高いほど双方向的関連度が高いことを表す。T スコアは二つの語の共起関係の統計的有意性を図る指標であり、広く頻繁に用いられるコロケーションの判定に有用性が高い。Gスコア(最尤度比)はコロケーションを検出する上で最もバランスのとれた指標であるとされており、関連度の総合ランキングに値する。

参考文献：

<日本語>

- 有田節子 (2007) 『日本語条件文と時制節性』くろしお出版。
 坂原茂 (1985) 『日常言語の推論』東京大学出版会。
 張北林・李光赫 (2012) 「テモの再分類と日中対照研究」『汉日语言对比研究论丛』第3辑 北京大学出版社 pp.89 ~ 106。
 中條清美・内山将夫・長谷川修治 (2005) 「統計的指標を利用した時事英語資料の特徴語選定に関する研究」『英語コーパス研究』12。
 永野賢 (1951) 『現代語の助詞・助動詞一用法と実例一』国立国語研究所報告3 秀英出版。
 日本語記述文法研究会(編) (2008) 『現代日本語文法⑥ 第11部複文』くろしお出版。
 沼田善子 (2009) 『現代日本語とりたて詞の研究』ひつじ書房。
 蓮沼昭子・有田節子・前田直子 (2001) 『条件表現(日本語文法セルフマスターシリーズ7)』くろしお出版。
 前田直子 (2009) 『日本語の複文』くろしお出版。
 益岡隆志 (1997) 『複文』新日本語文法選書2 くろしお出版。
 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館。
 南不二男 (1993) 『現代日本語文法の輪郭』大修館。
 宮島達夫 (2003) 『日本語類義表現の文法(上)』くろしお出版。
 李光赫 (2011) 『日中対照から見る条件表現の諸相』風詠社。
 李光赫・張北林 (2013) 「関数検定から見たト条件文の日中対照研究」『国語学研究』52号 pp.61 ~ 71。

<中国語>

- 郭志良 (1999) 《現代汉语转折词语研究》北京・北京语言大学出版社。
 黎锦熙 (1924) 《新著国语文法》北京・商务印书馆。
 李光赫・張北林・張建伟 (2012) 《条件复句日汉对比研究》广东・世界图书出版公司。
 吕叔湘 (1982) 《中国文法要略》北京・商务印书馆。
 邢福义 (2001) 《汉语复句研究》北京・商务印书馆。
 姚双云 (2008) 《复句关系标记的搭配研究》武汉・华中师范大学出版社。

用例出典：

| 原作品 | 翻訳版作品 |
|--------------------------------|----------------------|
| 『ノルウェイの森』 村上春樹 2004 講談社 | 林少华 訳 2007 上海译文出版社 |
| 『羊をめぐる冒険』 村上春樹 2004 講談社 | 林少华 訳 2007 上海译文出版社 |
| 『国境の南、太陽の西』 村上春樹 1995 講談社 | 林少华 訳 2007 上海译文出版社 |
| 『三毛猫ホームズの恐怖館』 赤川次郎 1986 角川書店 | 叶惠 訳 2006 香港博益出版社 |
| 『三毛猫ホームズの推理』 赤川次郎 1984 角川書店 | 叶惠 訳 2006 香港博益出版社 |
| 『三毛猫ホームズのクリスマス』 赤川次郎 1988 角川書店 | 叶惠 訳 2006 香港博益出版社 |
| 『三毛猫ホームズの駆落ち』 赤川次郎 1984 角川書店 | 叶惠 訳 2006 香港博益出版社 |
| 『越前竹人形』 水上勉 1969 新潮社 | 何平、乔正 訳 1993 上海译文出版社 |